



## 6 外海の大野集落

### 6. Ono Village in Sotome

「外海の大野集落」は、潜伏キリシタンが何を拝みながら信仰を実践したのかを示す4つの集落のうちの一つである。

禁教期の大野集落の潜伏キリシタンは、表向きは仏教徒や集落内の神社の氏子となり、神社に自分たちの信仰対象をひそかにまつって拝むことによって信仰を実践した。

また、この地域から多くの潜伏キリシタンが五島列島などの離島部へと移住し、彼らの共同体が離島各地へと広がることになった。

解禁後はカトリックに復帰し、「外海の出津集落」にある出津教会堂に通っていたが、その後、大野集落の中心に教会堂を建てたことにより、彼らの「潜伏」は終わりを迎えた。



撮影：池田勉

辻神社は、大野集落北東部の辻地区の人々が代々守っている神社である。もともと自然信仰に基づく山の神を祀った神社であったが、大野集落の潜伏キリシタンは、山の神に「サンジュワン」を重ね、ひそかに信仰の対象とした。



撮影：日暮雄一

解禁後、大野集落の潜伏キリシタンの多くはカトリックへ復帰した。1893年、パリ外国宣教会の宣教師であったド・ロ神父が出津教会の巡回教会として大野教会堂を建てた。赤土に石灰を混ぜた目地材を用いて付近一帯でとれる玄武岩で築いたド・ロ壁と呼ばれる独特の壁が特徴である。